

令和7年度 決算の概要 (上下水道局)

1. 決算報告

消費税及び地方消費税込み

収益的収入及び支出（経営活動に伴い発生する収支）

収入は前年度比 10.1%増の2,796,379千円、支出は前年度比 0.9%増の2,390,041千円

収入決算額 2,796,379 千円

前年度比 256,310 千円 10.1 % 増)

支出決算額 2,390,041 千円

(前年度比 20,506 千円 0.9 % 増)

2. 損益計算(純利益)

消費税及び地方消費税抜き

純利益(決算報告の収益的収入及び支出から消費税及び地方消費税を控除して算出)

令和7年度の純利益は339,151千円を計上 (前年度比252,581千円増、291.8%増)

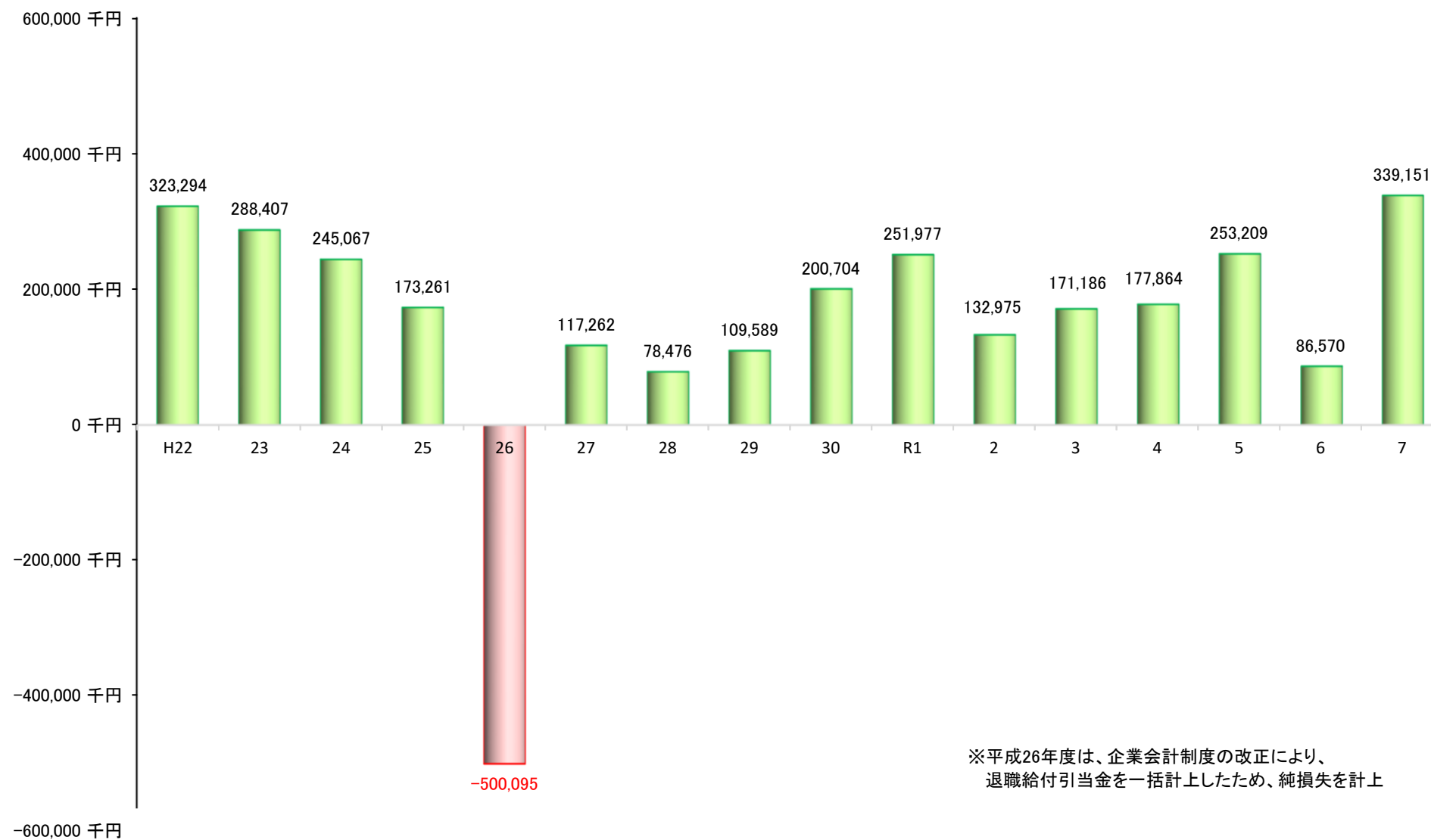
収入決算額 2,548,233 千円

支出決算額 2,209,082 千円

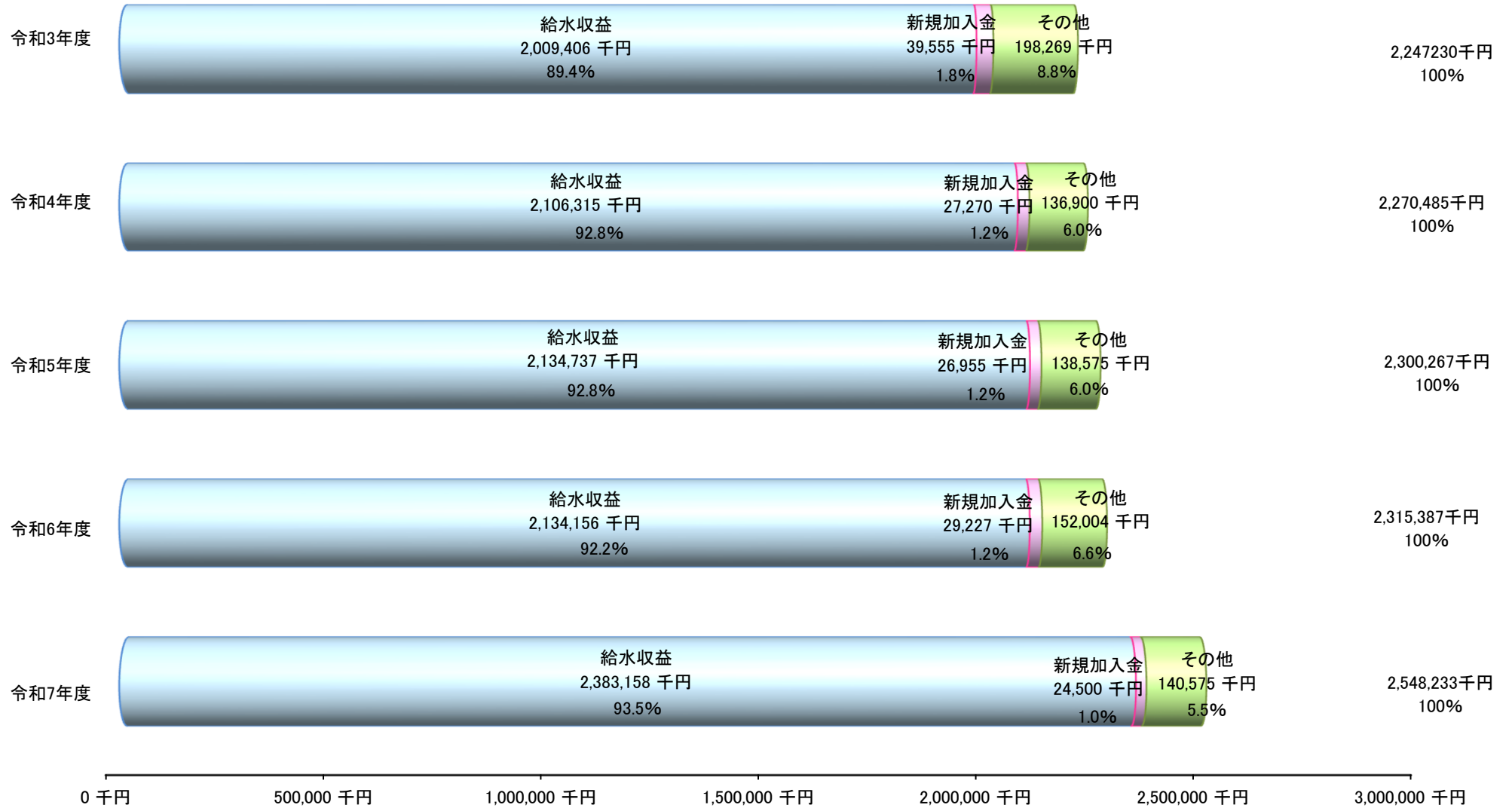
純利益 339,151 千円

(前年度比 252,581 千円 291.8 % 増)

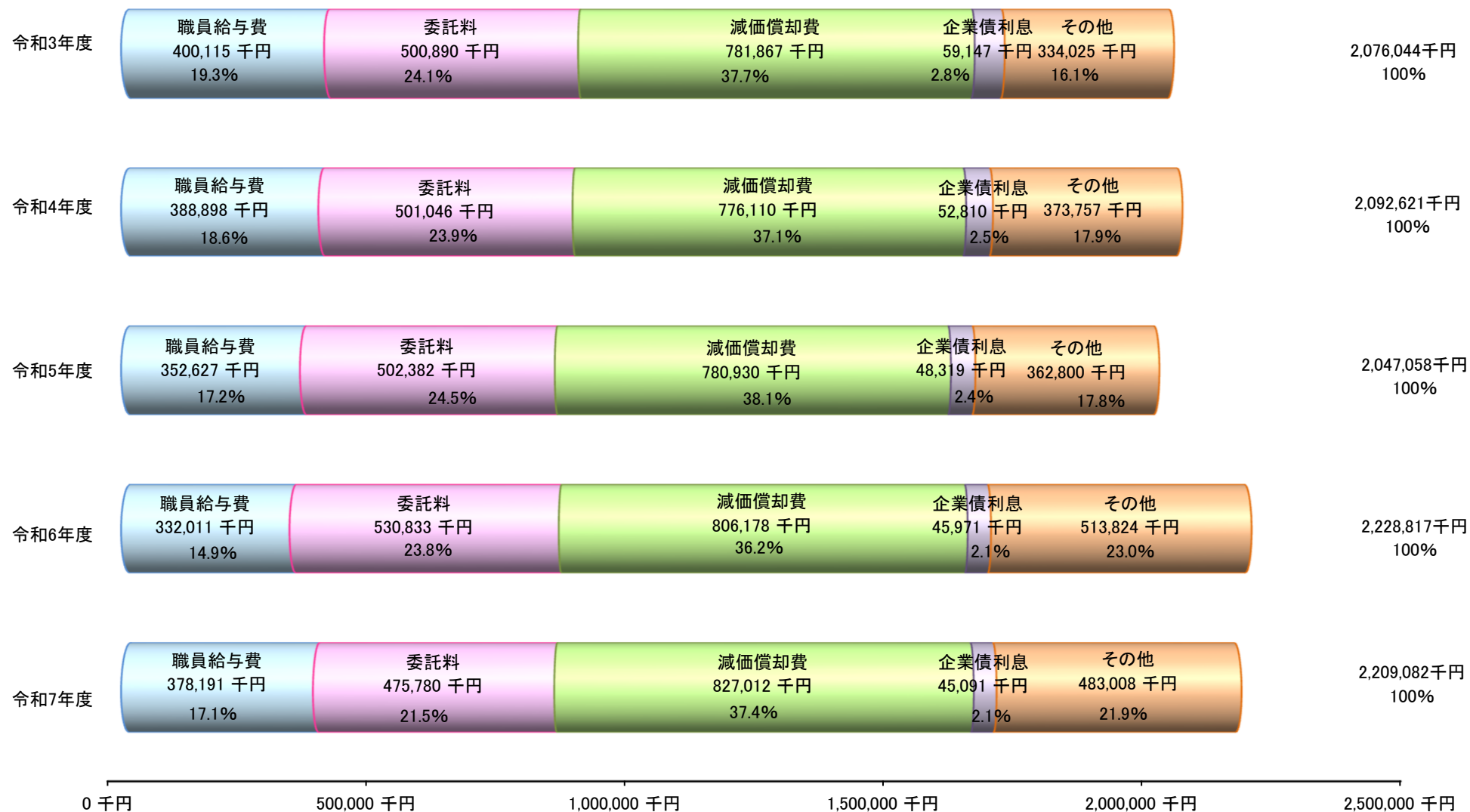
(参考)純利益(純損失)の推移



(参考)収入決算額の推移



(参考)支出決算額の推移

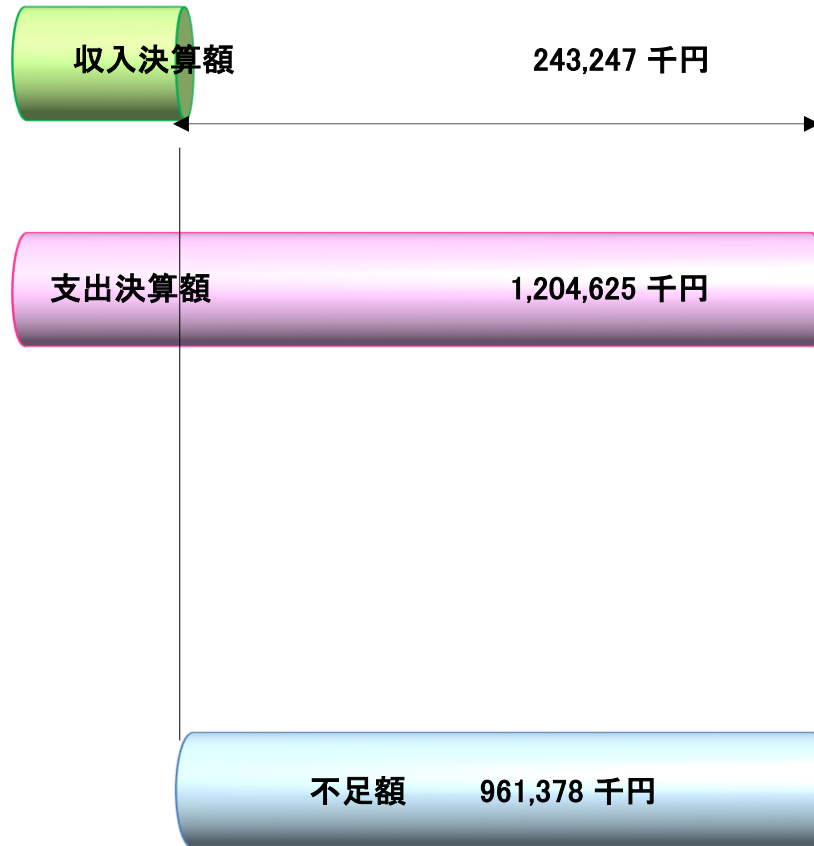


3. 決算報告

消費税及び地方消費税込み

資本的収入及び支出（水道施設整備などに伴い発生する収支）

収入は前年度比 0.6%増の207,041千円、支出は前年度比 0.9%増の1,251,879千円

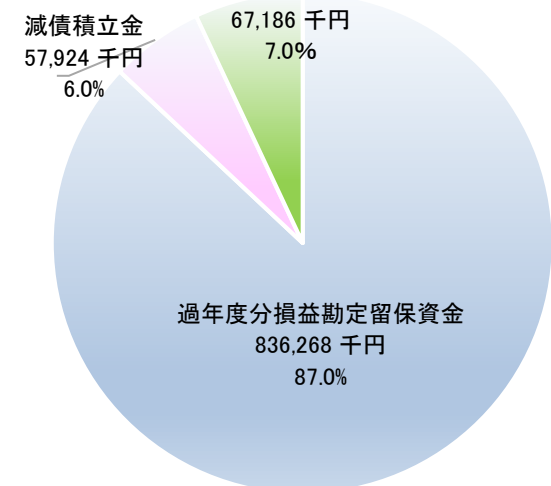


(前年度比 36,206 千円 17.5 % 増)

(前年度比 △ 47,254 千円 3.8 % 減)

不足額補填内訳

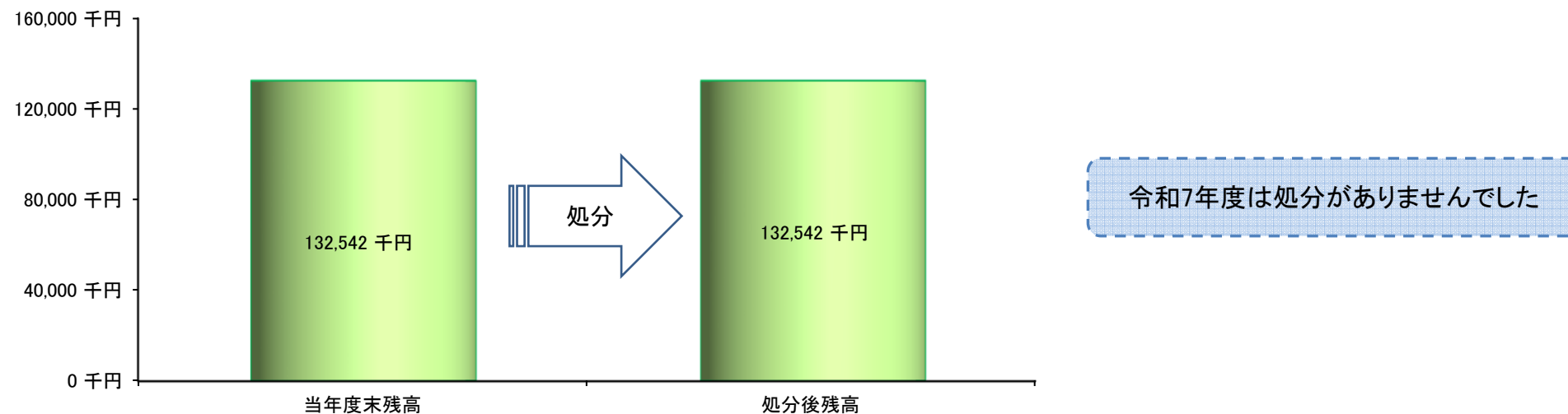
当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額



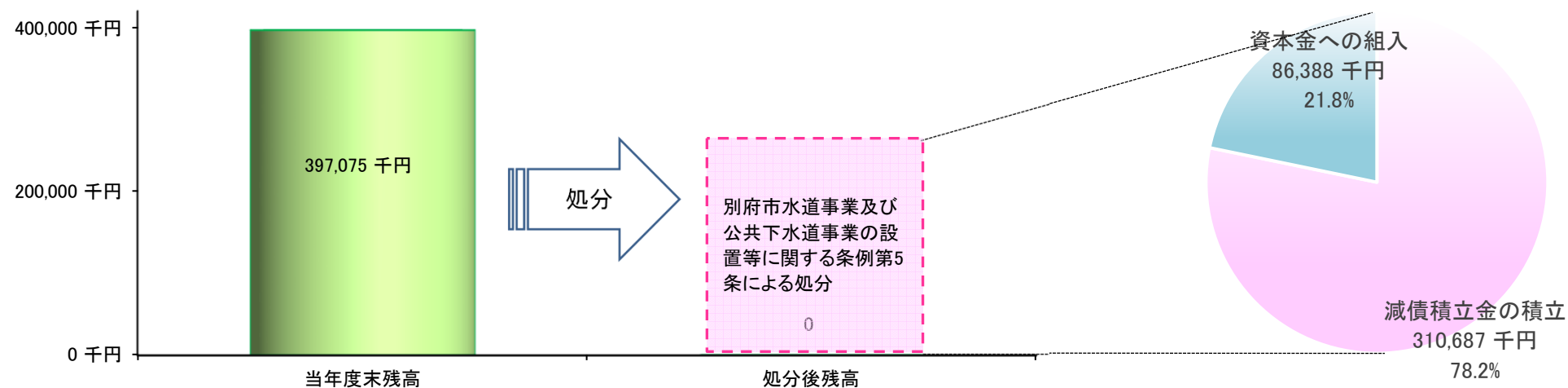
不足額については、過年度分損益勘定留保資金や減債積立金等を充当しました。

4. 剰余金の処分

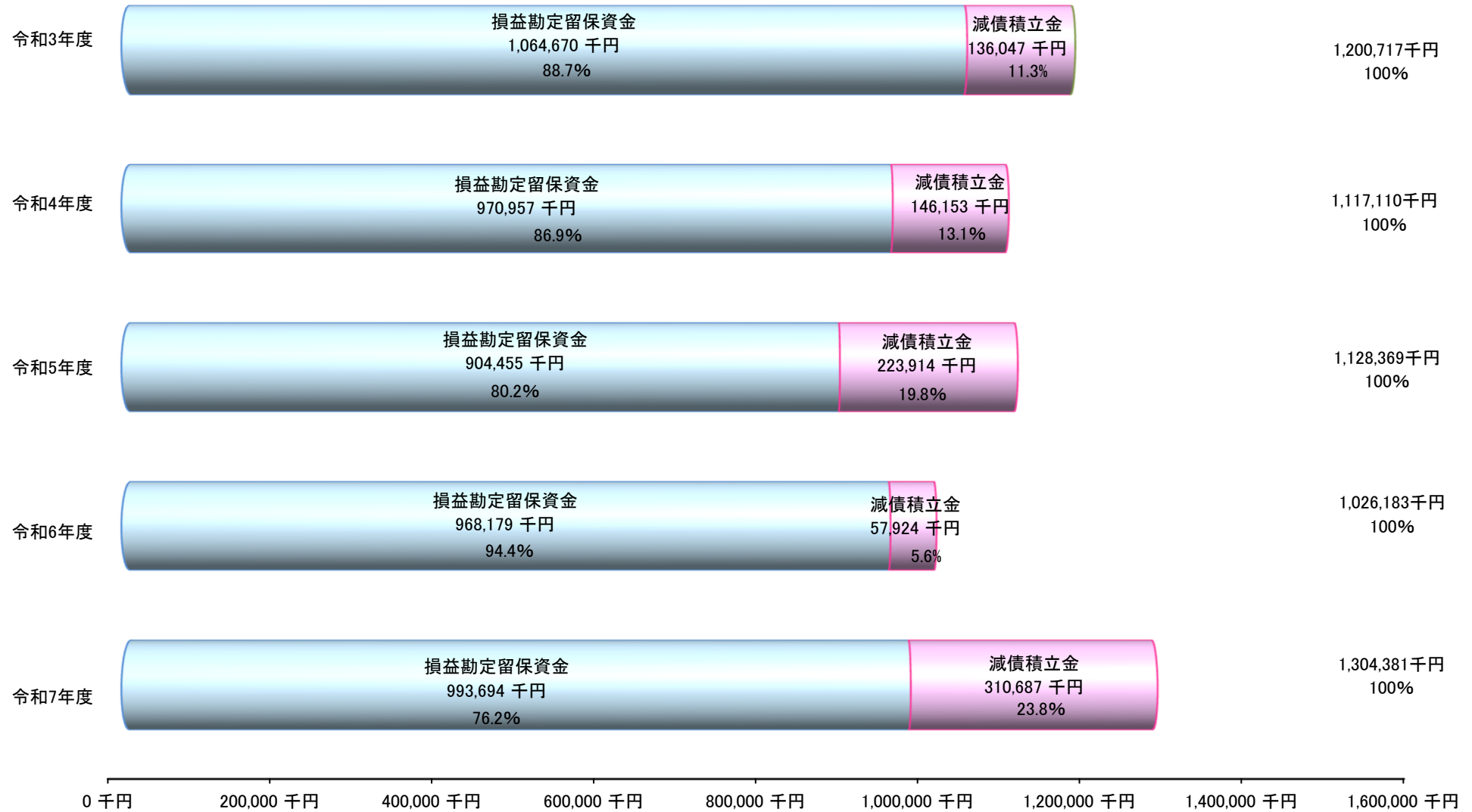
資本剰余金(条例に基づき、処分)



未処分利益剰余金(条例に基づき、処分)



(参考)財源の推移



5. 令和7年度に実施した主な事業

消費税及び地方消費税込み

施設拡張改良事業 179,332千円

安全かつ安定した水道水を継続して供給するため、市内に点在する経年化した施設及び設備の更新を行い、強靱な水道施設の構築を図るため、寒原水系バックアップ施設築造工事の内電気・ポンプ設備工事などを実施しました。

寒原水系バックアップ施設築造工事の内電気・ポンプ設備工事



配水管整備事業 436,689千円

災害時における強靱性を確保し、適正な水圧及び水量を提供できる効率的かつ経済的な配水管網の整備を、漏水防止対策の強化も考慮して、観海寺1組150mm配水管布設替工事などを、市内各所において実施しました。(延長距離3,404.5m)

観海寺1組 150mm配水管布設替工事



朝見浄水場既存施設更新事業 21,525千円

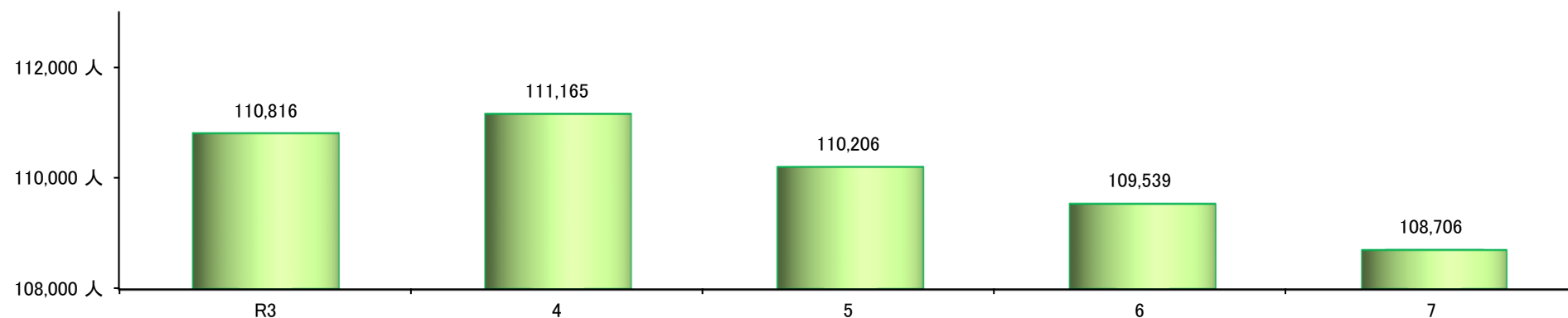
本市の基幹浄水場である朝見浄水場内の経年化した施設及び設備について更新を行い、安全な浄水処理能力及び安定した給水体制の持続及び向上を図るため、朝見浄水場機械脱水機棟圧力水ポンプ及びろ布洗浄水ポンプ更新工事などを実施しました。

朝見浄水場機械脱水機棟圧力水ポンプ及びろ布洗浄水ポンプ更新工事

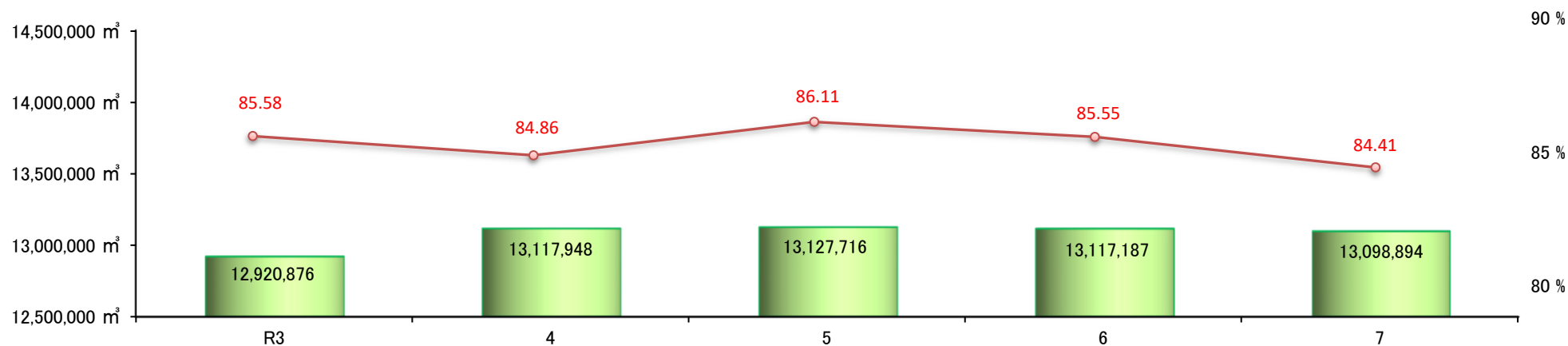


6. 業務量

給水人口の推移(給水区域内で水道を使用している人口)



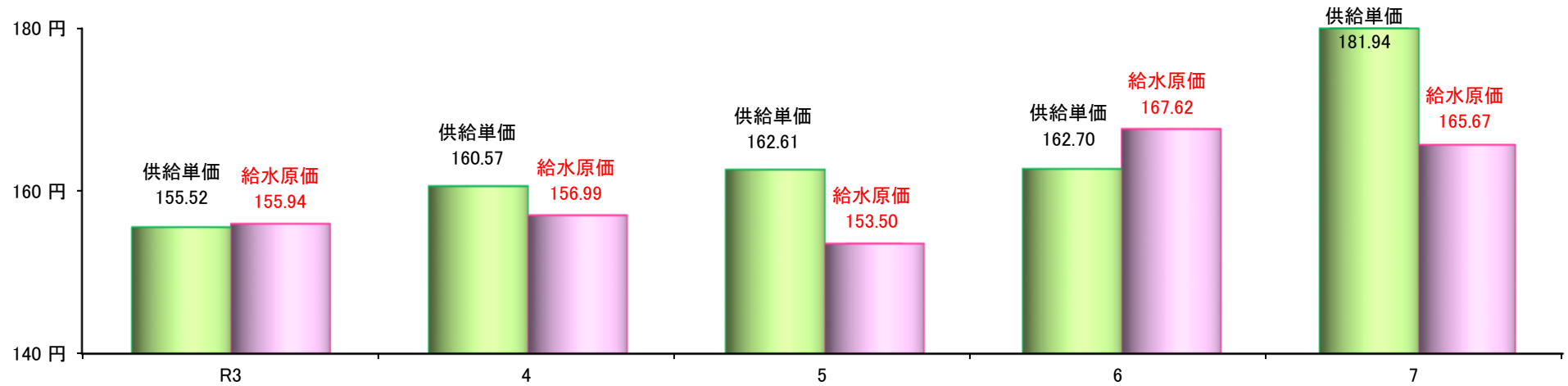
有収水量・有収率 (有収水量=水道料金算出の基礎となる水量 有収率=配水量に対する有収水量の割合で施設の効率性を示す)



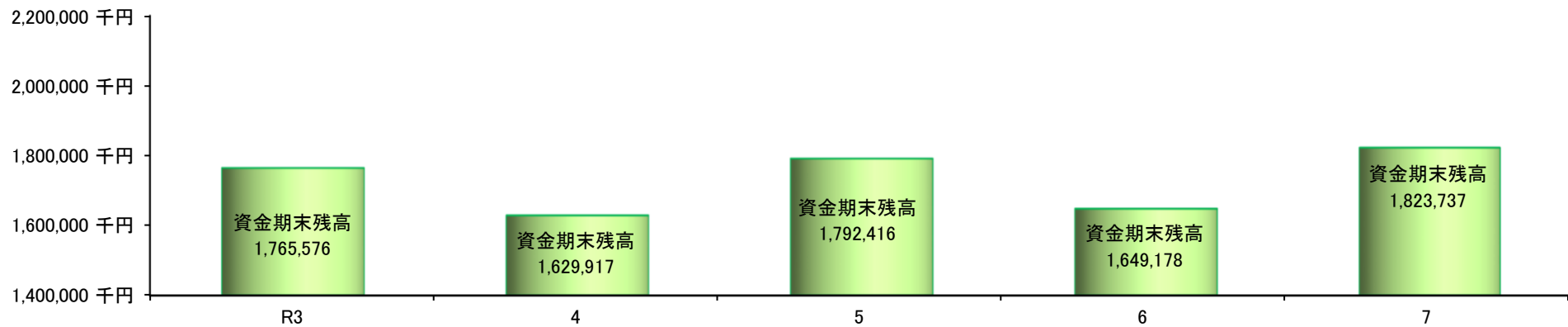
7. 供給単価・給水原価

供給単価＝1㎡当たりどれだけの収益を得たかを示す指標

給水原価＝1㎡当たりどれだけの費用がかかったかを示す指標

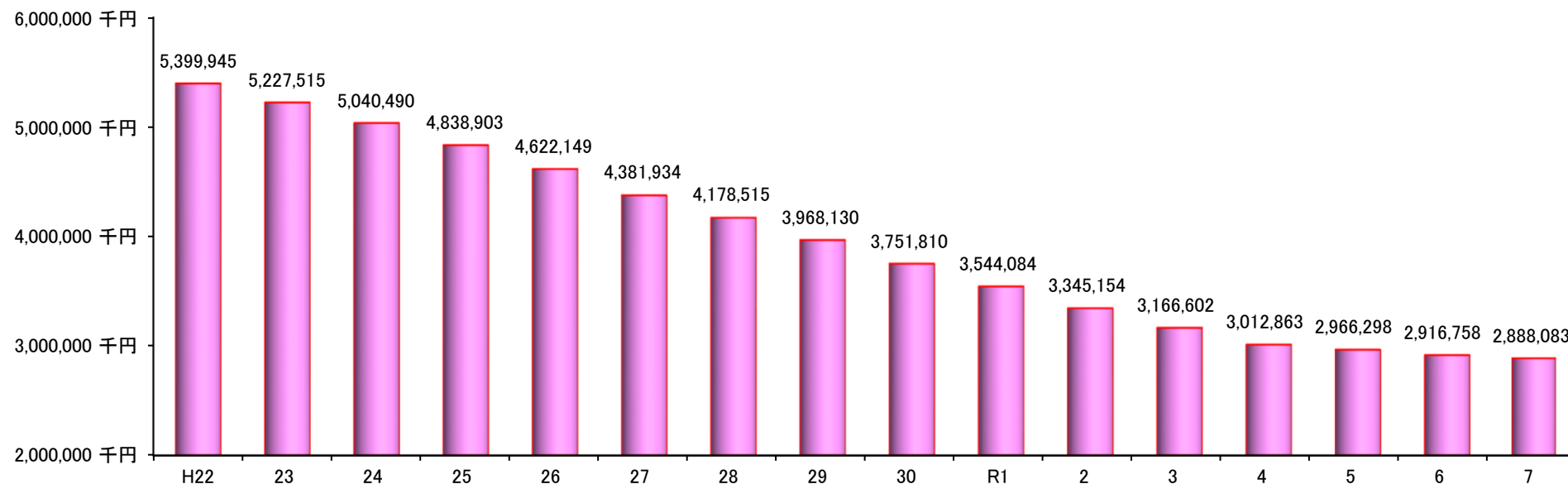


8. キャッシュ・フロー（業務活動、投資活動、財務活動による現金の動きを示すもの）



9. 企業債残高の推移（建設改良費の財源に充てるために借り入れた長期借入金）

年々、減少傾向で推移しています。



(参考)水道料金の状況（一般家庭用）

別府市の水道料金は、大分県下各市の水道料金と比較して、低い状況となっています。（令和7年4月1日現在）

1ヶ月10m³使用時の水道料金

1(最高)	1,960 円
5	
11 別府市	1,525 円
5	
14(最低)	1,100 円
県下平均	1,529 円

1ヶ月20m³使用時の水道料金

1(最高)	3,755 円
5	
11 別府市	3,345 円
5	
14(最低)	2,530 円
県下平均	3,218 円

1. 決算報告

消費税及び地方消費税込み

収益的收入及び支出（経営活動に伴い発生する収支）

収入は前年度比 15.9%増の2,215,632千円、支出は前年度比0.8%増の2,068,222千円

収入決算額 2,215,632 千円

（ 前年度比 303,588 千円 15.9 % 増 ）

支出決算額 2,068,222 千円

（ 前年度比 15,915 千円 0.8 % 増 ）

2. 損益計算(純利益)

消費税及び地方消費税抜き

純利益(決算報告の収益的收入及び支出から消費税及び地方消費税を控除して算出)

令和7年度の純利益は93,430千円を計上（前年度比271,300千円増、152.5%増）

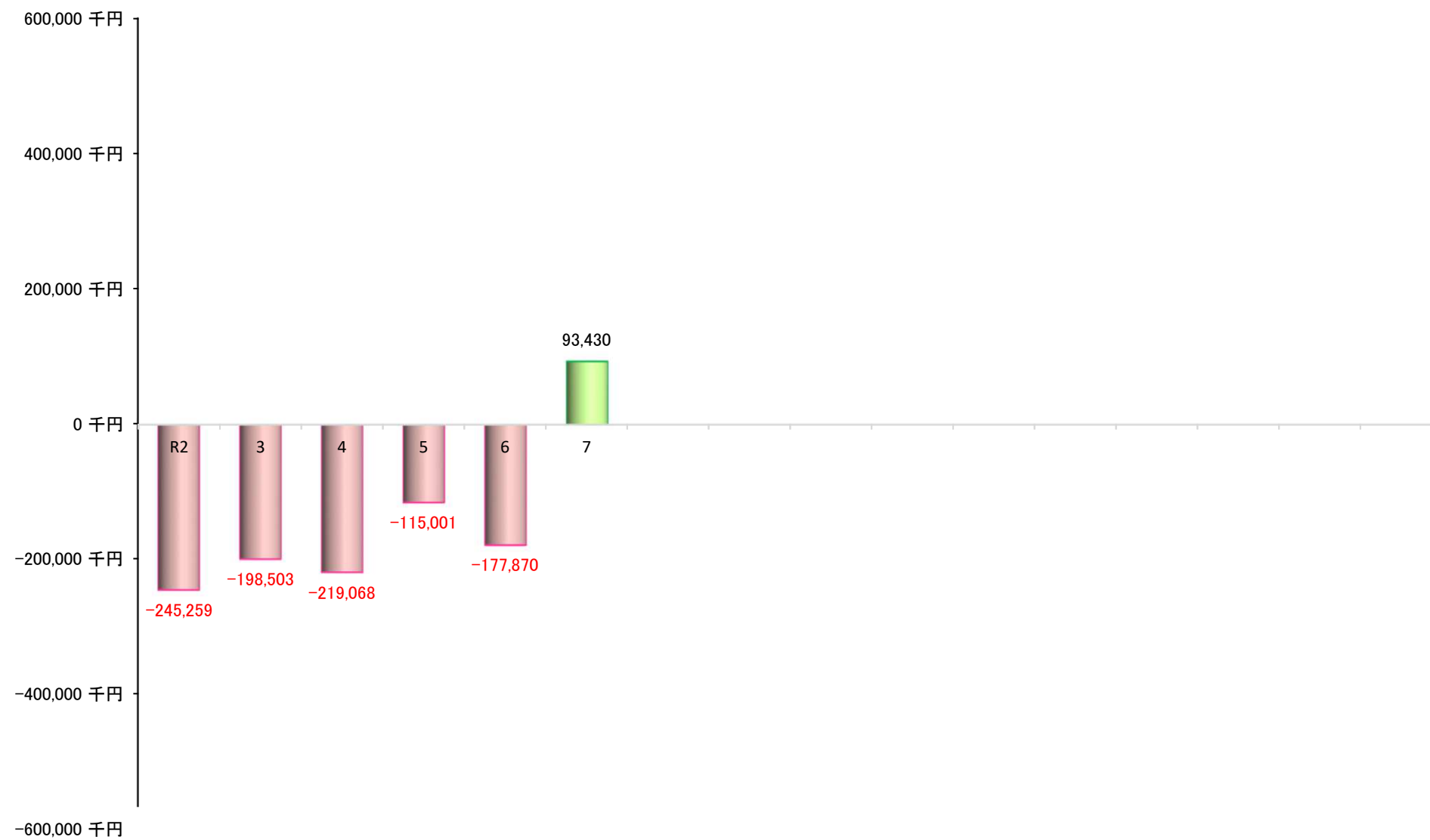
収入決算額 2,086,375 千円

支出決算額 1,992,945 千円

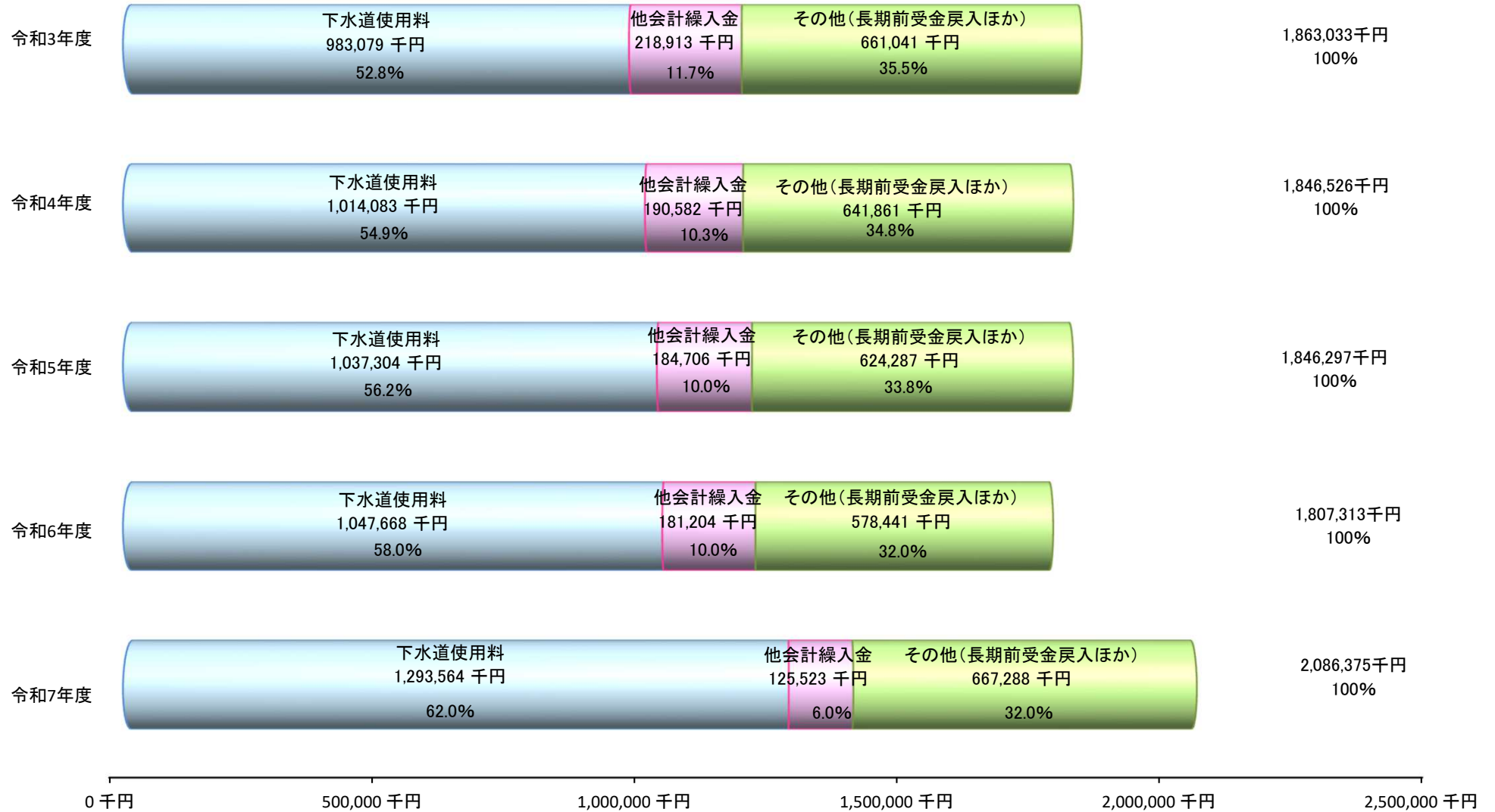
純利益 93,430 千円

（ 前年度比 271,300 千円 152.5 % 増 ）

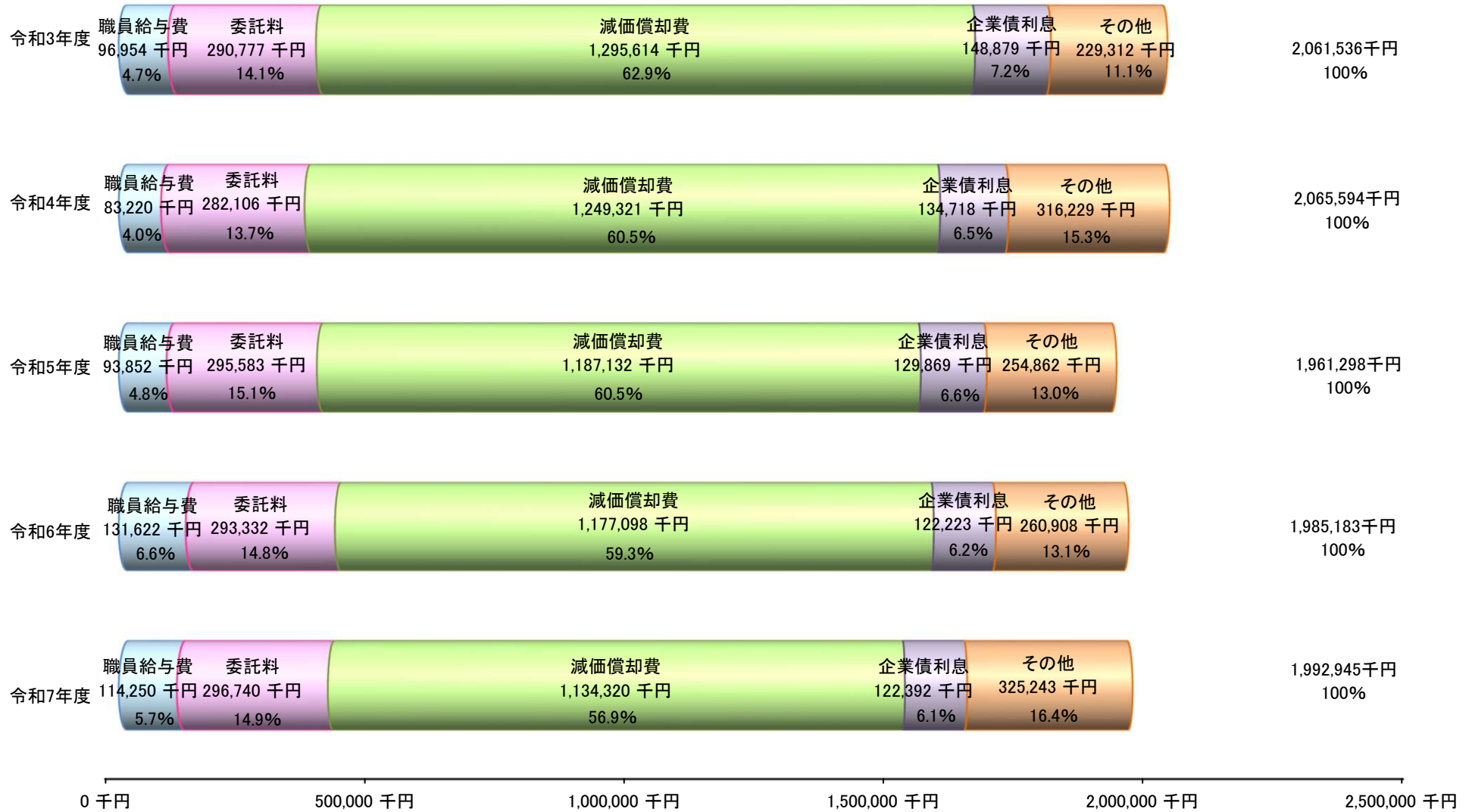
(参考)純利益(純損失)の推移



(参考)収入決算額の推移



(参考)支出決算額の推移

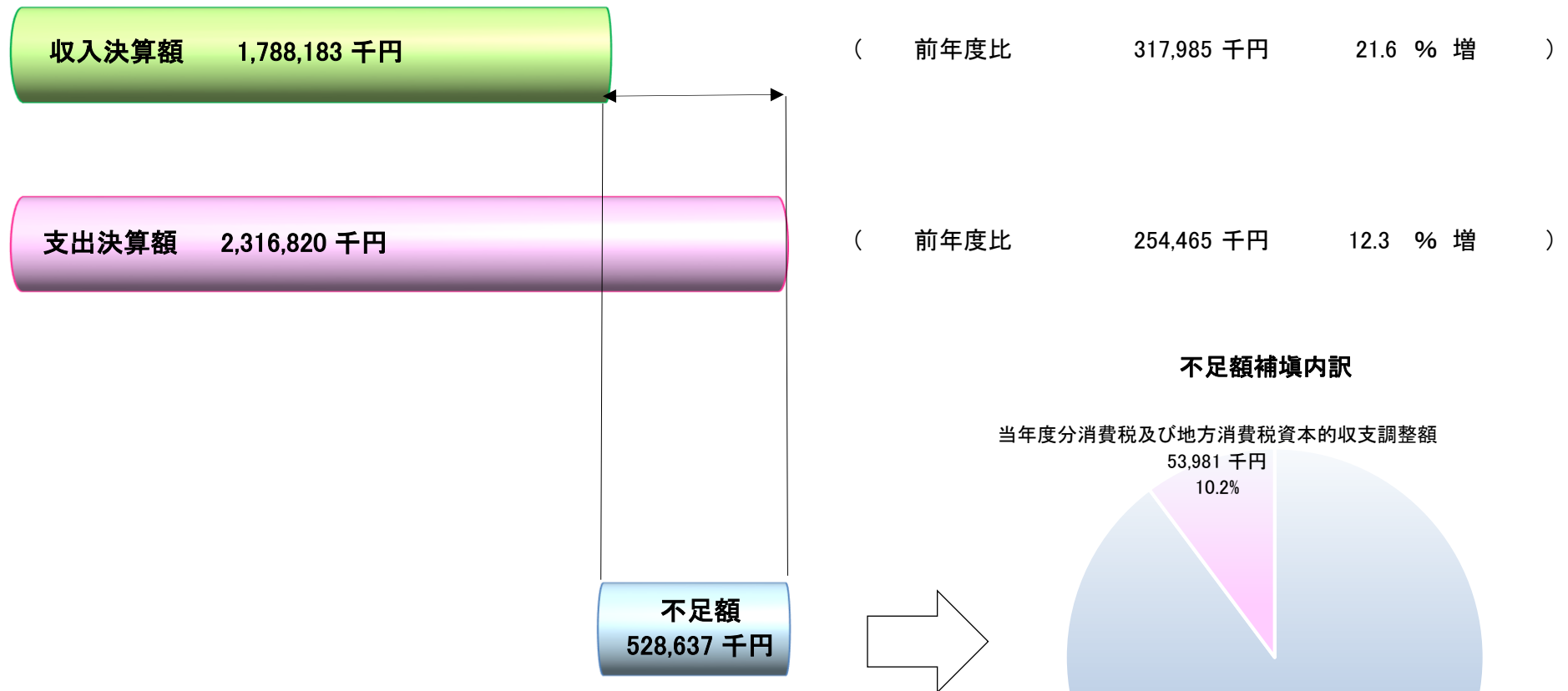


3. 決算報告

消費税及び地方消費税込み

資本的収入及び支出（下水道施設整備などに伴い発生する収支）

収入は前年度比 21.6%増の1,788,183千円、支出は前年度比 12.3%増の2,316,820千円



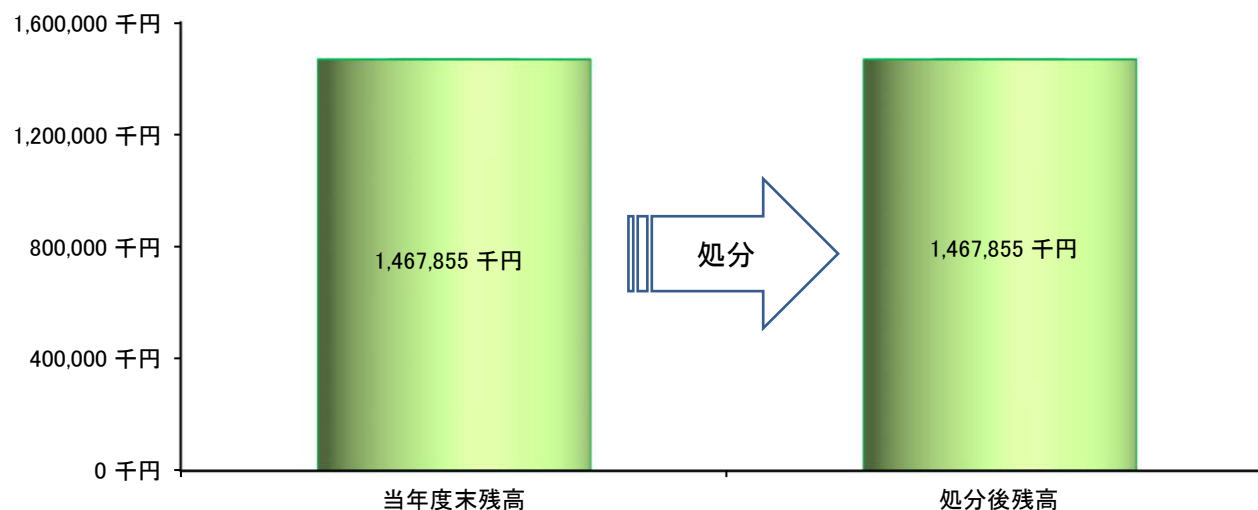
不足額については、当年度分損益勘定留保資金や当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額を充当しました。

(参考)財源の推移



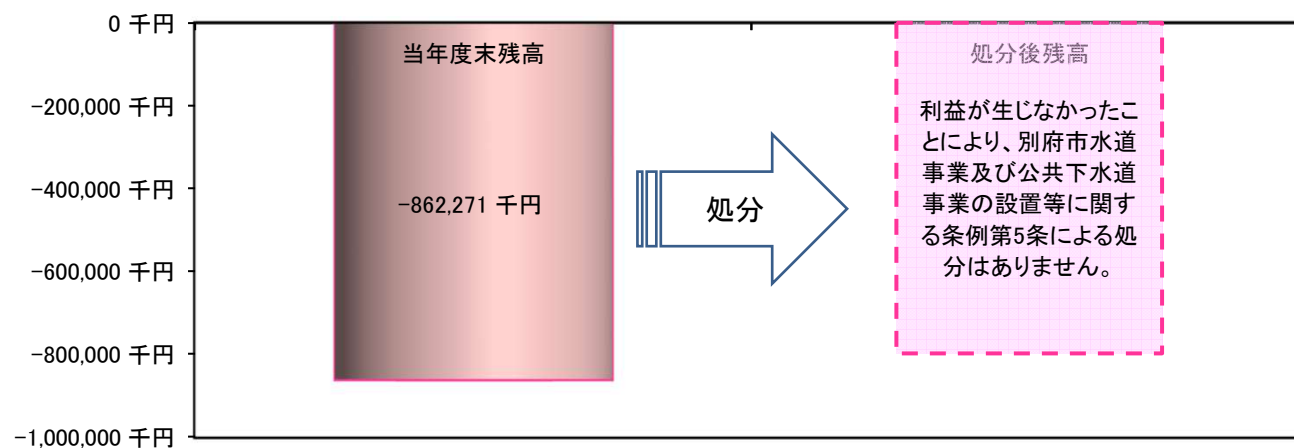
4. 剰余金の処分

資本剰余金(条例に基づき、処分)



令和7年度は処分がありませんでした

未処分利益剰余金(条例に基づき、処分)



利益が生じなかったことにより、別府市水道事業及び公共下水道事業の設置等に関する条例第5条による処分はありません。

令和7年度は該当がありませんでした

5. 令和7年度に実施した主な事業

消費税及び地方消費税込み

管きょ整備事業 403,433千円

管きょ整備事業では、認可区域内の住民の要望並びに投資効果の期待できる未普及地域を優先的に使用者の拡大を図り、収益の増収に努めるため東荘園八丁目4番外污水管きょ布設工事などを市内各所において実施しました。

また、老朽化した管きょの更新並びに耐震化を進め安全な污水处理施設の再構築を図り、生活排水の適切な処理による水環境保全に向けた取り組みを実施しました。



東荘園八丁目4番外污水管きょ布設工事

ポンプ場整備事業 198,300千円

市内に点在する污水中継ポンプ場の経年化した設備の更新及び強靱な施設の構築と安定した污水处理の持続を図るため、亀川中継ポンプ場監視制御設備の更新工事を実施しました。



別府市公共下水道処理場及びポンプ場工事委託に関する協定
(予算繰越分)

処理場整備事業 570,680千円

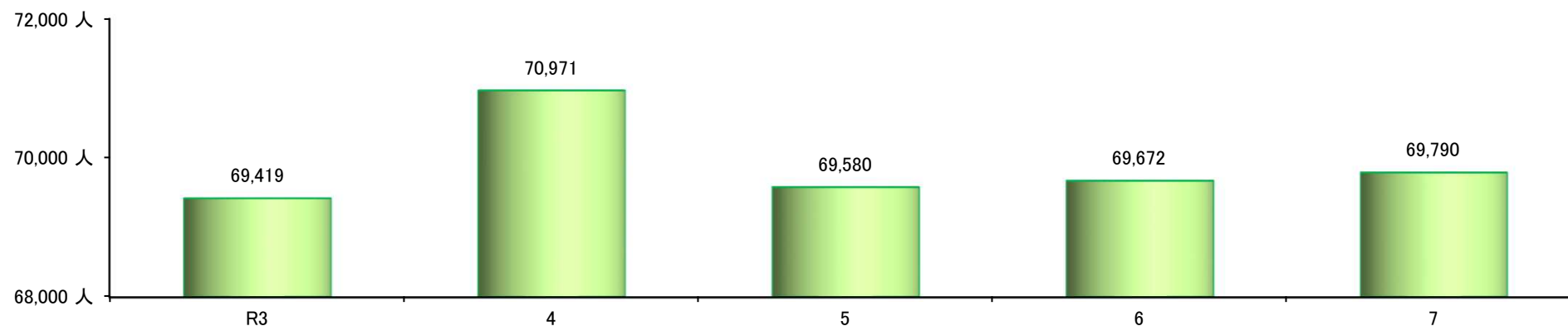
市内唯一の汚水処理場である別府市中央浄化センターの災害時における安定した汚水処理機能を確認するため、経年化した塩素混和棟の耐震・耐津波・更新工事を実施しました。



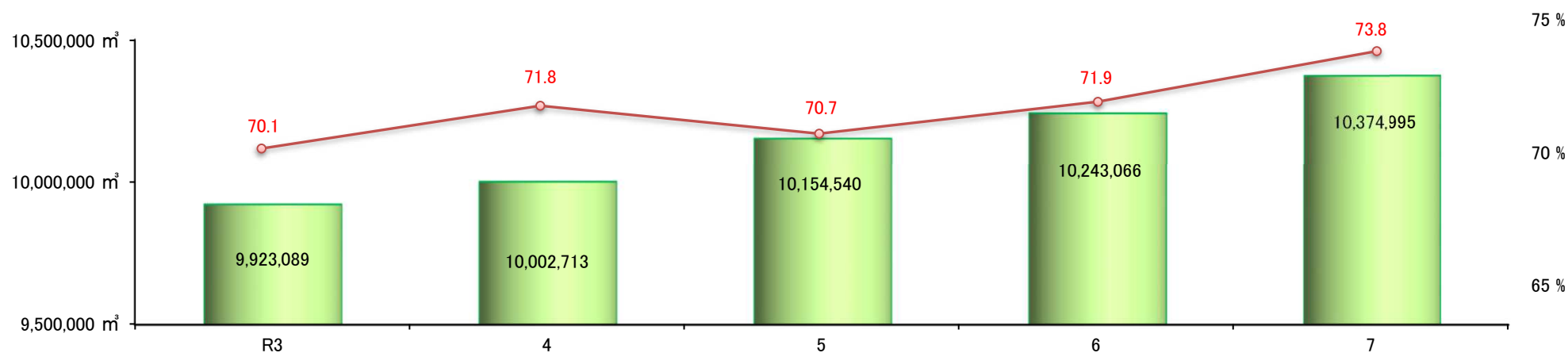
別府市公共下水道処理場工事委託に関する協定

6. 業務量

水洗化人口(水洗便所設置済人口)の推移



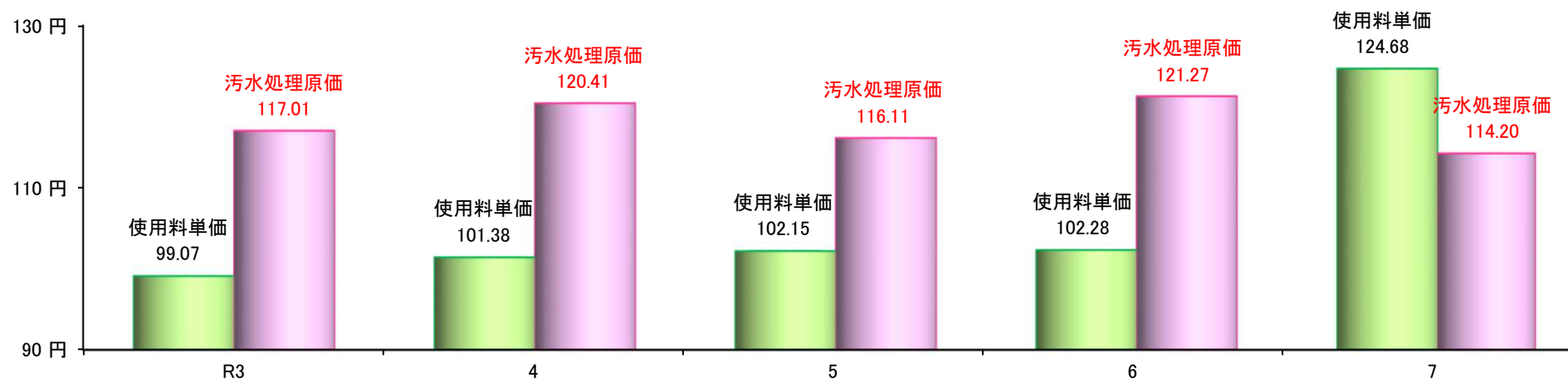
有収水量・有収率 (有収水量＝下水道使用料算出の基礎となる水量 有収率＝汚水処理水量に対する有収水量の割合で施設の効率性を示す)



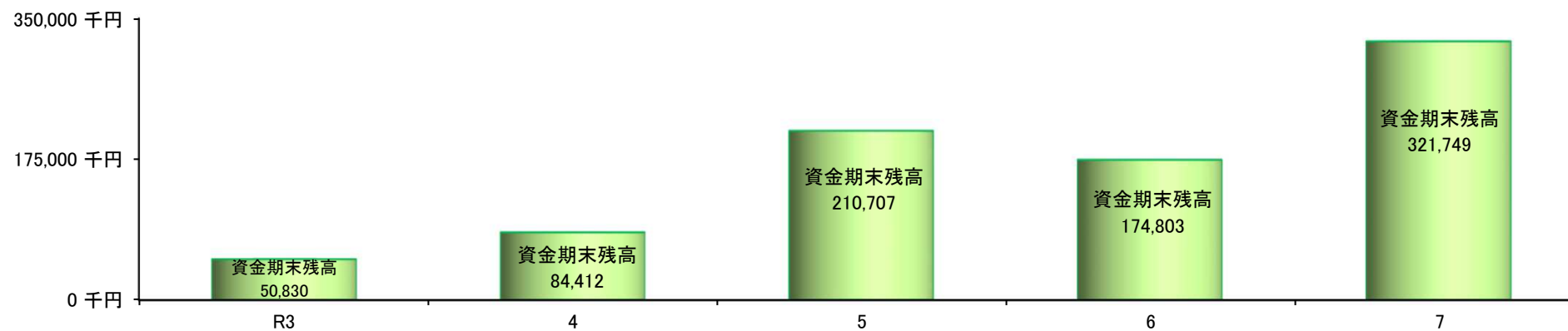
7. 使用料単価・汚水処理原価

使用料単価＝1㎡当たりどれだけの収益を得たかを示す指標

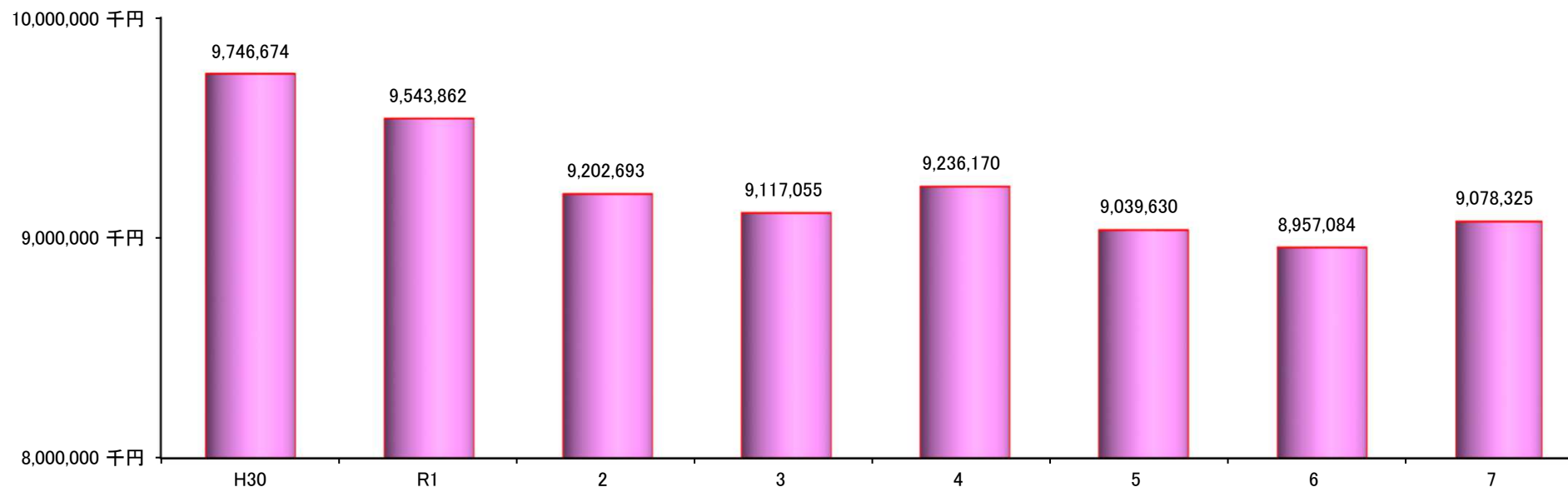
汚水処理原価＝汚水1㎡当たりどれだけの汚水処理費用がかかったかを示す指標



8. キャッシュ・フロー（業務活動、投資活動、財務活動による現金の動きを示すもの）



9. 企業債残高の推移（建設改良費の財源に充てるために借り入れた長期借入金）



(参考) 下水道使用料の状況（一般汚水）

別府市の下水道使用料は、大分県下各市と比較して、低い使用料となっています。（令和7年4月1日現在）

1ヶ月10m³使用時の下水道使用料

1(最高)	1,595 円
↓	
10 別府市	1,181 円
↓	
11(最低)	1,108 円
県下平均	1,375 円

1ヶ月20m³使用時の下水道使用料

1(最高)	3,300 円
↓	
11 別府市	2,721 円
↓	
11(最低)	2,721 円
県下平均	2,970 円